



## 見沼たんぼくらのイベント

### 平成27年度見沼たんぼくらの総会を開催 新年度の活動計画など決まる

平成27年4月25日(日)、さいたま市立大宮図書館視聴覚ホールにおいて、会員・来賓合わせて32名出席のもと、平成27年度総会を開催しました。

冒頭の挨拶で新井一裕会長は、本年2月に日本ユネスコ協会連盟から(当くらぶも一員の)未来遺産・見沼たんぼプロジェクト推進委員会が「プロジェクト未来遺産2014」に登録された事を受け「新たなチャンスとして、見沼たんぼをますます発展させていきたい。」との意気込みを語りました。

また、来賓として当くらぶ顧問である埼玉県土地水政策課長の代理で、石坂健主幹様並びに村田圭一主査様をお迎えし、石坂様からはご挨拶を頂戴しました。

議事では、平成26年度事業報告・収支決算報告・監査報告が承認された後、平成27年度事業計画案・予算案が可決され、新年度がスタートしました。また、昨年度まで監事を務めていたJAさいたま常務理事の森茂典氏が退任されたため、後任の鈴木正美氏が監事として就任することが報告されました。



(挨拶する新井会長)

(根岸 稔記)

### 未来遺産登録記念講演

薫風を肌を感じられるような、4月25日、大宮図書館において第102回の見沼塾が開催された。講師の北原氏は、2月に行われた「プロジェクト未来遺産登録証伝達式」では、さいたま市長や市会議員が列席する中で、司会進行の大役を務められていたが今日は普段のリラックスした表情である。

前半の話は、縄文期以前の見沼たんぼから井澤弥惣兵衛が登場するまでの紹介であったが、このあたりは多くの人の知るところであるので割愛する。

話の中心は、見沼たんぼを今後どのように保全していくかということで、県の職員でもあった北原氏自身が行政関係者とどのようにかかわってきたのかを詳細に解説してくれた。県知事や市長などの個人名までスライドに登場させていたのはどうかと思うが、演者の人柄として許されるだろう。

後半の話は、推進委員会に参加をしている団体の今後の取り組みについての提案が示された。第一に、自然環境の保護・学習活動や歴史・文化資源の研究活動、第二に、多彩な農的実践活動の展開である。第一の提案については現在も実践されている諸団体の活動を更に発展させる方向で異存のないところである。第二の提案については、大規模農家の存在を忘れては語れないものであり、こうした人達の存在が極めて重要だと思うが、時間の関係だったのか今回はあまり触れられなかった。

最後に一言。最近の傾向として講師が椅子に腰を下ろしたままで長々と話をする風景がよく見られるが、これでは視聴者に話し手の気持ちが伝わりにくいと思う。北原氏は最初から最後まで長時間立ったままで話をされたことは大変よかった。是非、若い演者に見習ってほしいことである。

(佐々木 明男記)

# 見沼たんぼくらのイベント

## 第60回自然観察ハイキング 『圓蔵院のシダレザクラ と上山口新田の野の花』

3月19日(木)9時、さいたま新都心駅に会員27名と会員外31名、合わせて58名が集結。新都心東広場まで誘導し、そこで初めの集いを行い、6班に分かれて、見沼代用水西縁を越えて、最初の見学地に向かった。

**南部浄化センターは環境に優しい公共施設**  
私が環境施設の企画と工事点検を手掛けた所を紹介した。屋上の雨水槽から雨水を下して水洗便所を洗浄。鳥や昆虫の鳴き声を聴く解説板は太陽光発電の装置。多自然型工法による水路。

### みんなで春の七草探し

上山口新田は無農薬の水田が多く、多様な野草が見られた。開花中の種は在来種19と帰化種9で、古来の在来種が多数を占めていた。

春の七草はみんなで見つけた。湿性植物のコオニタビラコとセリ、乾性植物のナズナとハハコグサとミドリハコベ、野菜のカブとダイコン。

### 圓蔵院のシダレザクラは未だ蕾

例年になくシダレザクラの開花が遅れている。その代り、キブシ・ハクモクレン・ミツマタの花が見られて助かった。



タマスダレのようなキブシ

### 中山神社でカシの木3兄弟確認

昔から見沼に自生するカシの木の3兄弟、シラカシとアカガシとウラジロガシがあった。

(小野 達二記)

## 見沼ふれあい農園づくり 京芋・里芋・八つ頭・生姜栽培

今年で4回目の栽培が見沼たんぼ(緑区見沼)で始まりました。好天の5月1日に種イモの植え付けを会員26名が参加して行われました。



今回の場所は過去3回栽培していた1号地が連作障害の影響を懸念されるため1号地より100メートル程南の新しい3号農地で耕地面積は約1200㎡です。この農地は今まで何も耕作されてなかったようで、農地整備のため役員が3月下旬に耕運したところ瓦礫がごろごろでてきて、そのなかには車のタイヤなどもありました。また、栽培準備のため4月下旬に苦土石灰を蒔いたときにも多くの瓦礫がでてきました。

作業はそのような状態の農地だったので、まず全員で石拾い草取りを行い終わったところから順次耕運し次に種イモを植え付けていきました。当日は8時30分に集合しすべて作業が終了したのが12時30分で去年より2時間ほど多くかかってしまいました。

植え付けた種イモの量は京芋10キロ、里芋47・5キロ、八つ頭50キロ、生姜40キロです。

植え付け後の作業は8月4日まで2週間~3週間毎に除草を中心に5回予定されており5月29日は石拾い・除草・追肥・土寄せを19名参加で行いました。

なお、仮設トイレを11月の収穫日までの予定で畑の隅に設置しました。

天候に恵まれ秋には大収穫になるよう期待して、今年も例年どうり福祉団体に寄贈を予定しております。  
(三上 雅央記)



# 見沼たんぼくらのイベント

## 第61回自然観察ハイキング

### (クマガイソウ・イカリソウと春の花)

表記自然観察会は、5月4日9時30分、片柳小校庭(使用了承済み)集合により実施された。参加者は45名で、各班2名の自然観察指導員による6班編成。天候は晴れで風もあり緑陰の涼しさに救われた。

コースは片柳小校庭―神明社―尾島家の斜面林―熊野神社―旧坂東家住宅見沼くらしっく館(解散)である。参加者の話では全行程1万歩の行程で凡そ5kmだっただろう。最初の神明社は境内に様々な春の花があり、帰化種もかなり見られた。この田園地帯にも海外原産種が多く侵入している印象である。事実、帰化種は10年程前の観察記録と比較すると倍以上が見られた。

次の尾島家の斜面林はクマガイソウとイカリソウの自生地であり市指定の天然記念物となっている。本日の観察の目玉である。残念ながらクマガイソウについては、例年より1週間程度開花期が早まったようで、花(唇弁)は萎れて、武将熊谷直実が背負っていた流れ矢を防ぐ「母衣(ほろ)」



に見立てられた花は配布資料の写真で想像するほかなかった。

一方、イカリソウは薄紅色の花が満開である。更に、アマドコロ・キエビネ・キンラン・ササバギンランなどの草花が、又、キリ・ミズキ・モッコウバラなどの樹花が楽しめた。約30分の観察で切り上げ、次の熊野神社に向かう。クスノキの大木をはじめシラカシ・モチノキ・スダジイなどの常緑広葉樹からなる鎮守の柱に囲まれた丘の上にある社である。社裏の樹上には散り始めたヤマフジがある。また、花を持つウラシマソウやホウチャクソウが多く見られた。(若野 忠男記)

## 第103回見沼塾

### 見沼たんぼの文化遺産・史蹟

第103回見沼塾は見沼たんぼ保全活動・未来遺産登録記念講座の一環として5月30日(土)14時・大宮図書館視聴覚ホールに於いて、講師河田捷一先生(大宮郷土研究会会長)による「見沼たんぼの文化遺産・史蹟」が行われた。参加者は26名であった。

見沼たんぼは昨年12月に、見沼関連団体による活動に対して「地域の文化、自然遺産を100年後の子供たちに伝えていく」という趣旨で、ユネスコ未来遺産に登録された貴重な地域である。講演はこの地域について多方面に亘る検証や諸行事などに関する貴重な内容であった。

紙面の関係から筆者が関心を持った事項のみを記すと以下の通りである。①八丁堤の建設によ



りできた見沼の干拓による水田は深く、膝まで埋まる体験をしているが、苗を植えるのではなく種籾の直播きが主体であった。②多くの民俗行事は農業と深い係わりのある神事であり、例年定日程で実施されて現在も継続する事例がある。③「夏越の祓」に行われる「茅の輪くぐり」は、チガヤを束ねて大きな輪としたものを潜り正月から6月までの半年間の罪穢を祓う行事。本行事の由来は、素戔鳴尊に係る蘇民将来・巨旦将来兄弟の伝説から。④氷川神社は全国に258社(諸説あり)あるが、中心は高鼻氷川神社を勧請している。

本神社の創建は、約25百年前の孝昭天皇3年(前473)出雲国簸川の川上に鎮座する杵築大社を遷し祀る。祭神は素戔鳴尊。延喜式神明帳には名神大 月次 新嘗 一座とある。

(若野 忠男記)

# 見沼たんぼくらのイベント

## 第62回自然観察ハイキング

### 『見沼自然公園とノアザミ自生地』

5月31日(日)9時30分、見沼自然公園に集まったのは、「熱中症に注意」と言う気象情報に影響されてか、会員28名と会員外4名合わせて32名に止まった。

### 見沼自然公園は生き物の楽園

出発に先立って、6班がそれぞれ見沼代用水造成の総指揮を取った井澤弥惣兵衛為永の銅像(市民の浄財で2005年建立)に挨拶した。

修景池と言う沼と樹林地を見て回る。初めカルガモのカップルに遭った。野鳥の鳴声は、始終シジュウカラ、時折キジとハシブトガラスも。

紅色と白色のスイレン(睡蓮)の花が水面に浮かび、キシヨウブ(黄菖蒲)の花が水面の上に突き出ている。ヨシやコガマが密生していた。

沼辺で、メタセコイアとラクウショウを観察した。前者は北米南部原産、後者は中国の揚子江奥地原産。いずれも珍しい落葉針葉樹だ。



### 深井家長屋門周辺の田舎道

見沼代用水東縁を渡って台地に登り、里やまの田舎道を歩いた。葉書の元祖タラヨウやキンギョツバキ、クサノオウに出会えた。

### いろんな草に囲まれリンと立つノアザミ

先週田植えを終えた田圃を背にして、土手に咲くノアザミを探した。コウゾリナの黄色い花やノイバラの白い花に交じって、アオムラサキのノアザミの花がリンとして立上っていた。

### ゴールは旧坂東家住宅見沼くらしっく館

12時過ぎ。ここで班ごとに流れ解散した。

(小野 達二記)

# 見沼たんぼ探訪記

## 第三回さいたまマーチ

第3回さいたまマーチ～見沼ツーデーウォークが昨年に引き続き3月の最終の土曜日と日曜日である3月28日と29日の2日間行われた。

第1日目の主なコースは見沼たんぼ北側ルートで大宮公園・見沼たんぼ・岩槻などを巡るコース、第2日目は見沼代用水東縁・西縁と芝川を歩くコースである。

両日とも5km、10km、20km、30kmの4つの設定コースが設けられており、年齢(小学生以下は引率者要)や性別を問わず各人の体力に合わせて自由に選ぶことが出来る。また、両日とも見沼たんぼの自然・景観を目に触れ、長年培われてきた歴史の雰囲気を感じながらのウォーキングである。



スタート及びゴールは中央会場(高沼遊歩道)で、また、各コース途中にはチェックポイントがあり、チェックを受ける同時に、ここにはトイレの施設や給水場も併設されている。

見沼たんぼは東京都心から20～30km圏内にあり、その面積は日光の中禅寺湖に匹敵するほどの広さがある。見沼代用水東縁と見沼代用水西縁との間に囲まれたたんぼにはいまでも動植物の育む自然が豊かに残されている。

チェックポイントで給水のお手伝いをしていると、「東縁の桜並木は五分咲きでしたが、きれいでした」「大道西橋からの見沼たんぼの眺めは最高でした」などと、皆さんからはそれぞれに見沼たんぼの自然を堪能された様子をお聞きすることが出来た。(召田 紀雄記)



# 見沼たんぼ水彩スケッチ紀行

## 水神社（さいたま市緑区）

見沼通船の守り神で、通船堀と芝川が交わる所に建立されている。祭神は「もう象姫命」（モウシヨウヒメノミコト）で、母神 イザナミノミコトの最後の子供。水に関係するすべてのことを守る神様で、もともとは溜まった水が、勢いよく流れだす場所に祀られる神様といわれる。

1732年、見沼通船堀を開削したときに、工事の安全と船運の安全を祈願して井沢弥惣兵衛為永翁が創建した。この地区には最盛時70戸以上の船頭や商店が栄えたという（26軒の船頭、37軒の商店、12軒の農家 明治末期の八丁河岸付近見取り図より引用）。

## 絵と解説 八木一郎



## 見沼氷川公園・案山子像（さいたま市緑区大字見沼500番）

氷川女体神社の眼下に広がる見沼田圃の中に造られた公園。女体社の社家の家系であった「武笠 三」の作詞した「案山子」（明治44年 尋常小学唱歌として発表）の歌詞や案山子像のモニュメントが設置されている。入口の通路を囲むように緑や紅のハナミズキの爽やかな彩りが心地よい。

## 氷川神社 二ノ鳥居・参道（さいたま市大宮区）

氷川神社一ノ鳥居から第三ノ鳥居（大鳥居とも）まで続く2kmの参道は古くは門前町として栄えた中山道。大宮駅からオレンジロードを10分ほどで、氷川参道の二ノ鳥居につく。

参道にはケヤキ・スダジイ・桜などの樹木が700本を超えて植えられており、年間を通して新緑の季節から秋の紅葉、さらに葉を落とした冬木立ちへと、美しく移り変わる。

賑やかな市街地から、落ち着いた参道に一歩足を踏み入ると、行き交う参詣の人々の表情も穏やかに変わってゆくように思われる。



## 見沼たんぼくらぶ会員作品展

### 見沼自然公園 作者 大曲洵子

「見沼たんぼ」と呼ばれる、田園地帯の南にある自然公園です。広さは東京ドームの2倍以上あり、緑地空間として整備されています。芝生広場と大きな池が広がり、睡蓮の花が帯をなして咲いて緑を美しくひきたて、四季を通じて春は桜、夏は緑、秋は紅葉、冬はロウバイが咲き、私達絵を描く者は絶好のスケッチ場所として、四季おとずれ変わりゆく景色をスケッチし、色付けして楽しんでおります。

園内は遊歩道も整備されていて、自然を楽しみながら散歩する人々、広場ではお弁当を広げる家族、ボール等で遊ぶ子供たちで、休日はひとときわ賑わっております。また広場には見沼代用水を作った井沢弥惣兵衛為永さんの功績を讃える銅像が建っています。



# 見沼たんぼの仲間たちNo.34

## 埼玉雑学大学

設立は平成 18 年 4 月 1 日である。4 月 2 日の新聞朝刊には次のように文面が掲載された。

「今日の講師が明日は受講生」という理念の下に市民が互いに学びあう場を提供する「埼玉雑学大学」がこのほど開講した。

一方通行型の講座ではなく、「今日の講師は明日の受講生」といった、講師と受講生を区別しな



い「双方向型の講座が特徴。講師役は陶芸家、会社社長、医師、政治家など多士済々などなど。

開校の前年にも「埼玉雑学大学来春開校目指す」として同じ新聞に大きく掲載をされたこともあり、出だしから反響が大きかった。

当初は講師として大学教員や歴史家、会社経営者などに講座を担当してもらっていたが、現在では一部の講座以外は会員の中からも担当できる者が育ってきており、大半の講座は身内で間に合うようになっている。

本年 1 月には外部講師による歴史講座を行い 100 名近い参加者があった。2 月には 3 名の会員によるシンポジウム形式の発表会「私のアウトドア」を行い、5 月には出前講座として「貝原益軒と岐蘇路」を実施した。

アウトドアとしては、旧街道を歩く旅、歴史の町歩き、中級登山、シニアスキー、スノーシュー、見沼たんぼの歴史散歩などを開講する。

会員数は最も多い時で 120 名であったが、現在

は約 70 名になっている。代表と事務担当 5 名その他運営委員が若干名いるだけで、総会もなく会



員による講座終了後の居酒屋ミーティングが大きな力となっている。

年会費 2000 円が全ての運営資金であるが、インターネットをフルに活用しているので、印刷代も通信費もほとんどかからない。

今後の方針としては、会員の高齢化が進み単なる馴れ合い集団になることを防ぐため、役員 70 歳定年の実施と広く内外に呼びかけ実力のある若い学長を招聘することである。

(補足) 雑学大学のホームページは登録をしないと見られないので、代表者個人のホームページを紹介します。会員にならなくても講座への参加は事務局に事前に申し込みをすれば自由に参加ができますので、好奇心旺盛で歩くことに自信のある人の参加を歓迎します。

埼玉雑学大学

〒337-0005

さいたま市見沼区小深作 637-2

佐々木明男方

電話 (048) 683-6765

佐々木のホームページ

<http://www7b.biglobe.ne.jp/~zatugaku/>



# 見沼たんぼを支える農家さん

## 「若谷農園」 若谷茂夫さん

田植えの終わった田んぼの上を初夏のような風が吹く、5月末の野田厩舎の近く。小松菜マークの看板が目印の「若谷農園」を訪ねました。

この地域は元々クワイの栽培に適していて、広島とトップを争うクワイの産地です。若谷茂夫さんのお宅もクワイ農家で、農家の長男として生まれた茂夫さん。長男は継ぐのが当たり前という時代でしたから、敷かれたレールを行くしかないのかなあ、という思いもあったそうです。6月の植え付けから始まって、厳冬期のクワイの収穫。田んぼに張った氷を割りながら、ずっぽりと腰あたりまで冷たい水に浸かっての手作業での収穫は



(小松菜ハウスの中の若谷茂夫さん)

されてきた小松菜に注目します。同じ都市部の生産地として、これなら年間栽培が可能で雇用も生み出せる、と思いハウスを建設、小松菜の栽培に取り組みました。

現在はパート 30 名、社員 4 名で小松菜をハウス 30 棟と露地で、それにクワイと米も作っています。農協や市場に出荷して市内各所で販売されており、また「地産地食」（若谷さんの言葉）の一環として市内の学校給食にも提供しています。

お子さんが女の子のため、“親子で農業”とい

う思いを若手の育成に託して平成 14 年法人化に踏み切ります。そして、「アット・ホーム」をもじって、「アット・ファームな農場です」というキャッチコピーでネット募集した研修生は、新潟、九州、広島、福島等々全国に及び、出身も農家も非農家もありと様々です。常時 3~4 人の若者が夢を持ってここで農業に取り組み、それぞれに巣立っていきます。若手育成のため、ハウスだけでなく初期投資が少なくてすむ露地栽培も取り入れられました。

さいたま市農業委員会の会長でもある若谷さん。これからの見沼については、エリア分けが必要だ。点在している市民農園や体験農園をまとめ



(看板のロゴマークは第一回の研修生がデザインしたもの！)

て駐車場・トイレ・休憩所を整備、農業者による生産専用地域と分けることでそれぞれのメリットを生かすことができる、といいます。

まぶしい日差しの中で、パートさん達の明るい声が響きます。きびきびと動く若者の姿。すっかり濃くなった緑の中で、真っ赤なシャツが爽やかな若谷さん。「農業は生命維持産業。次の世代に残せる宝としての農業をどう守っていくか」という言葉を、日々実践として重ねておられる姿がそこにありました。

・若谷さんの小松菜は高島屋、大丸、マルエツ、イオン等々で扱っています。

(取材：島田・高橋、 記：高橋)

## 見沼たんぼくらのイベント案内

### 見沼ふれあい農園づくりー秋野菜栽培 全5回 《家族連れ歓迎》

[企画]栽培の野菜は、大根各種、蕪、京菜、春菊、小松菜、二十日大根ほか。  
種蒔きから始め、2回目から除草及び間引きと一部収穫を重ね、最終日に全収穫。

[日程]①9月5日(土) ②9月26日(土)  
③10月10日(土) ④10月31日(土)  
⑤11月14日(土) 各10時～12時  
\*雨天の場合、①は12日(土)、②～⑤は翌日の日曜日。

[場所]さいたま市緑区大字見沼484  
見沼氷川公園南側、見沼たんぼくらぶ職あり。

[交通]東浦和駅からバス③「朝日坂上」下車、徒歩10分。(見沼氷川公園に駐車場あり。)

[申込み]150名(応募多数の場合は抽選)  
葉書で〒330-9301 埼玉県土地水政策課宛、郵便番号・住所・電話番号・氏名(フリガナ)・年齢を明記して、7月1日～15日必着。  
(家族は一通の葉書に連名) ただし、3回以上参加できる方に限る。

《会員は、見沼たんぼくらぶ会員No. 明記》

[参加費]無料

### 第63回自然観察ハイキング

#### 『見沼自然公園とヒガンバナ自生地』

日時：9月19日(土) 9時30分～12時  
集合地：見沼自然公園管理棟前

コース：見沼自然公園…見沼代用水東縁…  
深井家長屋門…さぎ山記念公園…加田屋新田  
…旧坂東家住宅見沼くらしっく館  
申込み：当日、集合地で9時から受付  
参加費：無料(ただし、会員外¥500)  
交通：大宮駅東口からバス⑦締切橋下車、南側(浦和学院高校・浦和美園駅西口・さいたま東営業所・大宮東高校各行き約30分乗車)

## 見沼たんぼくらぶ入会を勧めます!

見沼たんぼをもっと知りたい

見沼たんぼの自然にふれてみたい

見沼たんぼで何かしたい

見沼たんぼの保全に協力したい

そんな皆さまをお待ちしています!

■ 季刊『みぬま通信』をお届けします。

4月・7月・10月・1月発行

■ 埼玉県土地水政策課の支援のもとに、見沼たんぼ地域の里やまで、様々の体験事業を展開しています。子どもから年寄まで気軽に楽しめるイベントです。

○…見沼ふれあい農園づくり

農地はスタッフが耕運し、畝づくりを済ませ、種蒔き・植付から除草、収穫までの作業です。

収穫物は福祉施設にも寄贈し喜ばれています。

○…自然観察ハイキング

自然観察指導員のガイドで、年4回、史跡を巡りながら野の花や野鳥など見て回ります。

○…見沼たんぼ清掃ボランティア

○…斜面林の体験学習

○…見沼塾ー見沼の自然や文化を学ぶ講座

■ 年会費 個人(同居の家族単位)・団体・企業とも1口¥1,000(団体・企業は3口以上)

## みぬま通信第63号

発行日 平成27年月7月1日

発行所 見沼たんぼくらぶ

〒337-0053 さいたま市見沼区大和田町

1-2124-3 小野方

TEL・FAX (048) 683-1764

E-mail t.ono@axel.ocn.ne.jp

URL <http://minumatanbo.web.fc2.com/>

© 2015 Minuma Tuusin